

令和 5 年度

事業所名 : SOMPOケア そんぽの家GH釜石平田 (ユニット①)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100153		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぽの家GH釜石平田 (ユニット①)		
所在地	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田1-1-31		
自己評価作成日	令和5年11月13日	評価結果市町村受理日	令和6年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様と一緒に楽しむ時間を作りながら、利用者様のできることをできないことを理解しながら生活している
 ・家族様との時間をすること(面会時)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は全国で介護事業を展開し、県内や市内にも系列の介護事業所を有している。事業所間で連携を取りながら運営しており、当事業所の周辺は、緑も多い閑静な住宅地である。運営においては、理念「楽しい・笑顔のある家」を職員全員で話し合い、作成しており、実践に繋げる取り組みを行っている。法人全体で取り組む「子ども食堂」をほぼ毎月実施しており、地域の子どもたちが入居者と一緒に食事やゲームを楽しんで触れ合い、認知症高齢者や介護の仕事を理解してもらい取り組みを行っている。コロナ感染が急拡大した時期を除き、感染予防対策を講じつつも、家族や友人・知人の要望に沿って対面での面会を続け、コロナ禍を乗り切ってきている。家族の希望で看取りの支援も行っており、24時間対応の協力医や系列の訪問看護ステーションと連携し、令和5年度も家族と一緒に穏やかな看取りを実施している。当事業所では、コロナ禍であっても家族や地域社会とのつながりが途切れないよう社会関係の継続性に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標を張り出すことで職員の意識づけをしながら。利用者様ひとりひとりのできることできないことを確認しながら家として生活できるようにしている	事業所では全職員と管理者が協議し、『楽しい・笑顔のある家』という独自の理念を令和5年3月に策定している。この理念は目に見える場所に掲示され、管理者は職員との面談で、理念を実践に結びつける方法について職員の意見を取り入れ、アイデアを得ながら努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方への声掛け。お祭り際には、施設に来ていただき踊りを披露してくれた。今後、近所との交流の機会を多く作れるようにしていきたい	地域の町内会に加入し、近隣の方々に雪かきのお手伝いをいただき、必要に応じて駐車場を提供している。市の移動図書館が月に1回訪れ、利用者や地域の方も利用している。また、ほぼ毎月『子ども食堂』を毎月開催し、地域の子どもたちは、食事やゲームをしながら入居者と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年11月より子ども食堂を主催し、近隣の子供たちとの交流の場を作ることができている。親御さんにも施設があるということが少しずつ浸透できている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のサービス状況の報告を行い参加者の方からの意見を職員へ共有できている。前回から交番・町内会の方への参加をお願いし出席いただき様々な情報交換ができた	町内会長、民生委員、市職員、駐在所警察官など8人が参加し、2か月に1回のペースで対面で開催している。会議では入居者の状況や活動について報告し議論を行い、特に事故やヒヤリハットに関する報告は丁寧に行っている。また、町内会長から台風時に近くの川が危険との助言を受け、それを活かして訓練の避難方法を見直している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当の方とは月末月初に包括訪問時に状況報告を行い、電話での状況報告ができている	市担当課に事業所専用ボックスがあり、行政や他の事業所からのお知らせが収納され、連絡手段として活用されてる。月1回は市の担当課を訪れ、情報交換を行っている。市の平田地区応援センターの所長は運営推進会議のメンバーとして出席し、事業所の状況をよく理解している。事業所から市町村担当者へ運営情報の提供と共有も行っている。	

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。身体拘束をしないために、利用者様の状況を共有しながら適切な援助を行えるように取り組んでいる	家族からの情報も参考に、利用者の症状や行動の原因をアセスメントし、混乱の要因を取り除く支援を実施している。また、予測されるリスクについて職員間で率直に話し合っている。玄関の施錠は防犯目的で、夜の8時から翌朝の6時まで行われ、日中は自動ドアの開閉サインが音で示されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、不適切なケアがないかの振り返りをおこなっている。年4回委員会の開催		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者の方はいない。制度を理解し関係機関と連絡が取れるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明を丁寧に行い、疑問が生じたときにはわかりやすく説明し理解していただけるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望があった場合には、職員間での共有を行い伝達するようにしている	入居者は、管理者や職員、外部の方々にも意見を伝える機会があり、それが日常の運営にも活かされている。本社では年に3、4回、家族向けのアンケートを行い、面会時には必ず家族と話をしている。一部の利用者は携帯電話を所有し、家族に電話をかけて必要な物を依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会での意見交換・個別での職員との面談の機会を作り意見を聞くようにしている	毎月の職員による「定例会(職員会議)」では、利用者の情報共有、設備撤去等を含む改善や行事の開催に関する提案が出されている。2か月に1回、管理者と職員は個人面談を行い、運営に関する意見や要望も聴取している。グループ全体での研修体系も確立しており、職位や経験年数別の社内研修(オンライン研修)に職員が参加している。	

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所への訪問・オンラインでの会議で意見をきき状況の把握をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修が職種ごとにあり各職員がそれぞれ研修できる機会を作っている。外部への研修も参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作り新しいものを取り入れることができるようにしている		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人様の望む生活について伺いながら、施設に入居しても安心して生活できるように要望を確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族様の悩み事などを確認し施設に入居も家族様とも関わられるように要望の確認をしながら支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点での必要なサービスな違っていたりして場合には他のサービスを提案するなどしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様にしていただけることはしてもらうようにしているが、できないことも増えてきている職員と一緒にいることで関係性の維持ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも協力いただくことはお願いしながら、面会の機会を作ったり電話での状況報告を行うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で生活していた時のお友達が面会に来てくれる。面会時に、職員からお礼を述べながらまた来ていただけるように職員とのつながりも作るようにしている	感染拡大時以外は、コロナ禍でも予防対策を講じながら、家族との面会を継続している。以前は時間制限や窓越し、ホールでの面会だったが、現在は居室での面会を行っている。家族や兄弟・親戚が訪れる他、利用者は友人や近所の人とも交流を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握しながら、トラブルにならないように職員が間に入り対応して入る		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が利用者様の逝去によってが大部分を占めているが、家族様との交流はできている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向をききながら、できることできないことを本人様と話をしながら対応している	利用者の半数は意思表示が十分にできない。声かけや関わりの中で把握に努め、言葉や表情から真意を推し測り、確認に気を配っている。意思疎通が難しい方には表情や仕草を読み取り、家族や関係者からの情報収集にも努めている。	利用者一人一人のペースを大切に、その人らしく暮らしてもらうためには、利用者の話をしっかり聞くなど、実際の思いを把握しながらの支援の実践に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様・関係機関の方から聞き取りを行いながら生活歴について把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活のペースに合わせながらできることはしてもらうようにしている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況を確認しながら利用者様・家族様と話をしながら習慣やできることを把握しながら計画を作成している	毎月行われる定例会の中での事例検討会とケアマネが行うモニタリングで、利用者への支援の仕方を話し合い、介護計画に反映している。本人の意向やよく知る家族や関係者の意見も考慮され、見直しに際してはモニタリングに基づいて、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の気になったことなどを個別記録とは別に記入したものを用意し職員間での共有し計画作成者に情報をあげケア内容についての検討を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様からのニーズに対して各サービス事業者の方と連絡をとり対応ができています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様・家族様の意向を聞きながら、これまでの生活で関りがあった方との交流が継続できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療にされている方がほとんどではあるが、かかりつけ医に通われている方もいる。主治医に伝えたいことがあるときには、家族様を通してこちらでの状況を伝えてもらっている	利用者の多くは協力医による訪問診療を受診し、内科以外の特定科(耳鼻科・皮膚科)の診療も協力医の紹介状により家族同行でスムーズに受診ができています。家族が通院に付き添う場合には健康状態の情報を伝えている。診察結果は都度、職員が報告を受け、事業所での訪問診療の結果も変化がある際には家族に報告し、健康情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との業務委託を行い月に4~5回訪問していただき療養上のアドバイスをいただき必要な場合には訪問診療の医師への報告をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際には情報提供を行い、入院時の様子を確認しながら退院後の調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所の説明は契約時に行っている。利用者様・家族様の考えが契約時と変わることもあるので利用者様の状況に変化があった時には主治医から説明してもらうなどの対応をとっている	入居時に「重度化・看取り指針」に基づき、医療的ケアが必要になる場合を除き、希望により看取りまで対応することを説明している。重度化に伴い利用者や家族のニーズを考慮し、支援の方法を調整しており、状態が変化する都度、話し合いを行っている。家族、医師、事業所で情報を共有し、令和4年度には2名、令和5年度現在で1名の方を看取っている。	終末期ケアを事業所の強みとし、安心して大切な家族のケアを任せられるグループホームとして研鑽にさらに励んでいくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や主治医から状況が変化していく過程を教えていただき対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に避難が難しい場合には事業所の二階へ。避難できるときは近隣の福祉施設への避難としている。町内会の方とも連携しスムーズに避難できるように協力をお願いした	事業所では年2回の火災避難訓練や招集訓練を実施し、土砂災害警戒区域に指定されているため、地域の助言を受けて2階への搬送練習も行っている。また、事業所間の協力として、近隣のSONPO職員が緊急時に駆け付ける体制が整備されており、そのための電話連絡訓練も実施されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの生活歴を理解し職員が同じ対応ができるように情報共有しながら対応委している	やりたいことは制止しない、いやなことは押し付けられないことを基本に利用者には自己決定してもらうよう、一人一人の尊厳を大切に、働きかけや支援を行っている。会話中に、不機嫌や態度の変化が見られた場合には、会話の内容を職員同士で検討し、申し送りノートで情報を共有し対応している。言葉遣いから、利用者の誇りやプライドを傷つけない介護を実践している。	
----	------	--	--	--	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望を会話の中からくみ取りながら職員間での情報共有を行い利用者様が希望を言いやすい環境づくりに取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを理解しながら対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方に来てもらうが利用者様が要望を伝えていること多い。服も自分で選び買えるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べれないものを把握し対応できている。食後の片付けなど無理のない範囲で一緒に行なっている	主菜や副菜は、東京本社の食材グループに1ヵ月分を注文し、前日の午前中に当日分が届く。職員はご飯と味噌汁を用意し、利用者の半数が後片付けを行っている。美味しいものを楽しむため、旬の食材や新鮮なものを取り入れたメニューを考え、行事の時には地域の仕出し屋さんから取り寄せたり、外出時には外食する利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量など利用者様で違うこともあるが、摂取量・水分量を把握しながらたいおうしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、入れ歯の不具合・口腔内の状況に変化があった時には歯科医に相談し訪問診療をお願いしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を確認しながら誘導している。リハビリパンツではなく布パンツで対応できる方はそのままにいていただけるようにしている	入浴前や食事前などに声をかけ、トイレ誘導を行っており、尿意のない利用者にも適切なタイミングで誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。衣類が汚れた時は、羞恥心や不安に配慮し、濡れているからと直接的に言わずに、それとなく衣類を交換して清潔を保持している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の機会を作り体を動かし、水分補給も行っているが内服に頼る方が増えている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後に定着している。利用者様から入浴したいという希望があまりないが同じように入浴できるように対応している。男性職員が担当では嫌な方には女性職員で行うようにしている	週に2回、午後の入浴を基本としている。入浴を嫌がる利用者には強制はせず日程を調整し、異性介助を嫌がる人には同性介助で対応している。車椅子利用者には職員2名で介助支援を行っている。恐怖心と羞恥心を意識した支援を行っている。利用者は職員と1対1の会話を楽しんでおり、一人一人の昔の話、思いや希望などを知るいい機会になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様ごとに就寝時間も違い・休息の取り方も違うので個々に合わせ無理強いせずに対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認しながら、状況に変化があった時には主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様にできることはしてもらいながら、楽しみの機会を作れるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての外出はできていないが外出レクを実施している。家族様が面会時に一緒に出掛けられるように家族様にも協力をお願いしている	コロナ禍で外出が減少したが、人混みを避けつつユニットごとにドライブに出掛けている。春には近くの桜並木を見たり、秋には紅葉を見に行ったり、海岸の散策を楽しんだりしている。普段は行けないような場所でも、本人の希望を考慮して外出している。コロナ収束後には、買い物やドライブをしながら外食を楽しむことを考えている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田 (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設預かりとして、立替での対応としている。購入希望は職員が対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様と電話したいと希望があれば対応している。家族様や友達からの電話がありお話をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	匂いなど不快がないように配慮している。季節での飾りつけなどを作成している。室温も利用者様と確認しながら換気も行いながら行っている	玄関から左右にユニットが分かれ、それぞれホールを囲むように各居室が配置されている。シックな木目調の床でホールや廊下、トイレも明るく、各スペースは、車いすでの移動に支障がない作りである。共用の空間は、臭いや音など不快な刺激がないように配慮されており、壁の装飾もすっきりしている。建物内は掃除が行き届いており清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様と同士で過ごす場所が固定されている。利用者様同士でお話しされる様子がみられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていたものを持って来ていただいている。事前に家族様に相談しながら配置している	居室にはエアコンと24時間換気システムが設置され、ベッドと整理ダンスが備え付けになっており、清潔感のある居室になっている。利用者や家族の希望に基づき、居室のレイアウトが自由に調整されている。慣れ親しんだ家具やテーブル、写真、装飾品を持ち込むことができ、畳を敷いて暮らしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自分から移動したりしながら生活できる環境になってきている		